

## 令和5年度研究構想案

## 生徒にもっと発表させたいという方向性であるならば

今まで以上に生徒に発表させることで、学習に広がりや深まりをもたせ、授業の理解度を高める方向で、仮に次年度の研究構想案を考えてみました。

〈令和5年度研究主題・副主題案〉

一人も取り残さない「わかる」授業システムの構築

～ リーディングスキル・アウトプット・リフレクションを通して ～

〈令和5年度研究仮説案〉

各教科の授業において、次の手立てを講じれば、生徒にとって「わかる」授業となり、授業の理解度が高まるであろう。

[手立て①] 学習課題の共書きを行い、文言の中の生徒にとって親密度の低い言葉を取り上げるとともに、リーディングスキルの視点を取り入れた授業づくりを行う。

[手立て②] すべての生徒がじっくりと考えることができる学習課題を吟味し、自力解決の時間を保障し、考えたことを書かせ、それをもとに発表する場を設ける。

[手立て③] 振り返りの時間を確保し、視点を明確にして生徒に書かせ、それをもとに発表する場を設ける。

## なぜこのような研究主題・副主題案、研究仮説案なのか

○ 研究主題「一人も取り残さない『わかる』授業システムの構築」について

授業システムの構築は、1年でできるような生易しいものではありません。授業への集中度や態度、取り組む姿勢等からは、一人も取り残さない授業に近づいてきました。しかし、授業の理解度からは、わかる授業に課題が残ります。

○ 研究副主題「リーディングスキル・アウトプット・リフレクションを通して」について

今年度と研究の方向性に変わりはありませんが、研究内容に「アウトプット」を付け加えました。これを研究仮説にも反映させました。また、今年度の研究からは、時間の確保だけでなく、その内容を含めて「振り返り」が課題として残りました。次年度は、「リフレクション」として重点的に研究内容に入れることにしました。

○ 研究仮説について

まずは、生徒が発表できる場を設定することが重要です。しかし、一人二人の生徒を指名して発表させて終わりでは、学習に広がりや深まりは出てきません。一人の発表をもとに教師がコーディネートしていくような展開が望まれます。

この研究構想は、基本的には同じ研究の2年次という考えです。研究構想を練る場合には、次年度への課題として残ったもの、生徒に足りないもの、生徒に身に付けさせたいもの、教育の今日的課題、時代の要請などの要素から、先行研究、先進校の資料、研究論文、書籍などをもとに作業を進めていきます。したがって、研究構想をつくる過程で多くの収穫があることとなります。